



2021-12-29 現在、順次増補予定

野帳の片隅に、厳しい旅の合間のそよ風であった一瞬の想い、書きとめたはずのメモを
順次繰って、寡作で拙い 句・和歌を探し出して、録しておく。

2021. 12. 5

75. 自らに ハヤトウリの実 重ねるや 急ぐ降霜 抗う余生

2021.7

74. ピンピンと ピンカ伸びるや 暑熱に

73. カラスにも負けじとばかり鳴き昂ず ウグイス

72. 自販機と ATM を 呼びし妻

2021. 4. 5

71. あげまいよ 南瓜の味 娘にも

2021. 4. 3

70. 鶯の 初鳴き嬉し 崖線の路 老いて登るや 叱咤の声に

2021.3

69. 鶯の 鳴くらんかや 爛漫と

68. 辛夷花 何と思ふか 犬の君

2021.2.16

67. 水戻る 春の野川 白鷺も

66. 階段の おののくや 足の音

2021.1.20

65. 幼児らの 枯野の咲くや 色帽子

64. 門男と 幸を約する 山里に 予祝の四季：

2021.1

63. 翡翠の 光る嘴 満腹や

62. 訪れる シジュウガラや 朝の音

61. 明けなずむ 風の時代を 寿ぐよ

2020.12

60. 暮れ往くや 土の時代に チャペルの音

2020.12.16

59. 紅葉こそ ゆるりと散りて 小春日に

2020-8-20

58. 鳴き急ぐ 五つの蟬 励まして

2020-6-2

57. 紫陽花の 移ろい往くや 花の色 あなたの心 変わらめやもや

2019-12-16

56. 寒月は 白く輝く 天窓に 彼岸への夢 朝陽を待つや

2019-11-15

55. 早朝の バイクの音に 暗闇の 安眠にして 生るを知るや

2019-2-3

54. 啄むよ 孫(こ)雀たちの 節分会 平安なるや このくにの現在(いま)

2018

53. 孫帰る スプーン2本に 安堵する

2017-8-9

52. 緑山 黒富士霞む 夏空に 嵐過ぎぬる 野川の小道

2017-8-7 野川公園の朝散歩

51. かしましや ミンミンゼみと 朝散歩

50. 碧空の アカシア散りぬ 花小道 霞かす芝 走者の脚

2017-7-23

49. 水鉄砲 孫と戯る 妻御やな (みずでっぽ:野川公園にて)

2017-6-28

48. 黄鳳蝶の 山百合の花 雨宿り (きあげは:自宅庭)

2016-7-17 瓜の実のつもりが、連想からマリヤ聖母様になり、金蓮花の種子にした。

47. 弾み軽る 心の毬や(マリヤ聖母) 瓜畑(金蓮花ナスチウム)

2016-6-25 タチアオイ

46. 清明に 起立するか哉 葵花

45. ひらひらり 飛翔すると 蒼空に

2016-6 奥多摩の道路にて

44. 信号だ コレと叱るや ハクビシン

2015-11-20 ハワイにて

43. スコールに ヘッドもかすむ 日付越え (ダイヤモンドヘッドに時差ボケ)

42. 波待ちの てんてんや ヤシはるか

41. 孫きたら ハロウィンの日 限りなし “trick or treat”

40. 寝つかずに 狼少女 忍び足 騙りのノック 含み笑い

2015 初夏 くじら山

39. そよ風に 草を滑るや 孫むすめ

2014-10-31 里芋

38. 食すなり 曾孫芋まで 愛おしく

2014-10-27

37. 秋日に 蟻んこのごと 幼児群れ

36. 秋桜 穏やか陽射す 蒼空に

2014-10-18 小菅村

35. 糸瓜水 命の涙 愛おしや

34. 野の小菊 水神様に 寄り添うの

33. 里芋の 野良着の裾を 濡らす露

2014-4-20

32. 初孫に 生命の重さ 春の宵

31. 初孫の 温い重みに 思い出す 今巡りくる 生の喜び

2013-4-8

30. 萌黄の間 茜陽射す野 妻女と

2002-12-20

29. 誰ぞ知る 黒衣纏うや 赤心の 打ち震えたる 寒梅の晩

1999-8-8 St. Louis 国際植物学会議

28. 冒険の トムとハックの 心あり ミシシッピーに 吾や戻れり

1998-10-31 岩手県浄土ヶ浜にて

27. 秋彩 浅き浄土の海 シェルブールの雨傘の 歌流れぬ

1998-8-18

26. 草刈の 吾に対峙す 蟻螂斧

1997-4-7 バンガロール

25. 千客 スクールの後 到来す

After showers, numerous guests are just coming.

24. 土ばった バッタバッタと 跳ね上がり
23. 初蟬に ジャケツイバラ 燃え上がる
22. 脱穀に 恐れ戦く スコルピオン
21. 鳴く家守 蚊取り止まず 良き友や
20. 騙されて 巧みなテクに 悲憤す
19. 老農夫 心通うや 言葉なく
18. 天竺に 孤愁演ず クマリ居り
17. 一杯の ミルクティーに 心充つ
16. 朝夕に 香焚く暮らし 優雅やな
15. 午睡後の 大夏圃場 のどけきや

1995-3-27

小松真木子の自死を知り、春雷に濡れ、心を癒した日に

14. 春止まる 彩色園に また生くる 香る沈花に 真木子の姿

1994～

13. 黒猫の 瞳澄ました 花見かな

1989 秋 アザドカシミール

12. 清涼 林檎の郷に 蟬の声

89-10-5

11. 残照の岩山暗きデカンの野

89-10-25

10. はるかなる 古里、故郷、妻娘、大和、x x を思い
9. 菜の花に 懐かしき香り デカンの秋

89

8. 新月に煌くブネー懐かしき

日時不明

7. 名利に 懐せず 思想に 生くるなり

ご卒業を祝して、オオイヌノフグリの花を愛でる

6. 陽溜りに 春一番は 花の瑠璃

1982年6月14日早朝 入梅の入り 想いのままに 連駄作

5. 紫陽花の 笑顔美し 入梅の入り
4. ライ麦の 風土に合わぬ 晩生の穎花
3. 悪戯の 華々しきか 雨降りの日
2. 子供らの 足すり寄りぬ 入梅の朝
1. 交情の 降雨の如くは 疎縁也

木念 観天望気 紫陽道人